

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2522 号

Clinical features and predictors of outcome in patients with acute myocardial infarction complicated by out-of-hospital cardiac arrest

院外心停止を合併した急性心筋梗塞患者の臨床的特徴と予後予測因子

園田 健人（そのだ たけと）

博士（医学）

論文内容の要旨

急性心筋梗塞は、再灌流療法や薬物治療などの進歩により院内死亡率の大幅な改善がみられているものの、いまだに生命予後に関係する重篤な疾患の一つである。特に院外心肺停止を合併した急性心筋梗塞患者の予後は不良とされるが、これについての検討、報告は特にアジアにおいて少ない。本研究は、院外心停止を合併した急性心筋梗塞患者の患者背景、臨床的特徴や予後規定因子を調べることを目的とした後ろ向き観察研究である。2004年から2017年にかけて急性心筋梗塞のため順天堂大学医学部附属静岡病院に入院し、緊急で経皮的冠動脈インターベンションを施行された患者を登録、観察した。患者背景や死亡率などは、院外心停止合併群と非合併群に分けて検討を行った。急性心筋梗塞のため入院し経皮的冠動脈インターベンションを施行した連続2,101名のうち、95名（4.7%）が院外心停止を合併していた。若年、非糖尿病、非脂質異常症および責任病変が左主幹部もしくは左前下行枝であること、来院時の腎機能障害が院外心停止と関連していた。院外心停止合併群の30日死亡率は32.6%と、非合併群の4.5%と比較し約6倍高率であった。30日死亡について多変量ロジスティック回帰分析を行ったところ、責任病変が左主幹部もしくは左前下行枝であること、来院時の腎機能障害、血糖値が独立した危険因子となった。